



埼玉大学 (埼玉県)



「多様な日本語・日本文化科目を提供します。」

■大学紹介

① 大学の特色および概要

埼玉大学は、東京圏に位置した総合大学としての使命を果たしている。本学は、旧制の浦和高等学校、埼玉師範学校ほかを母体として1949年に創設されてから60余年が経過し、教育・研究の場の整備を着実に進めており、地域の学術交流の拠点に成長しつつある。昨年度の留学生数は540人を超え、一段と国際交流が活発化している。

また、海外からの研究者の受入れや本学教員の国際的研究活動も増加している。本大学は5つの学部とさらに高度な教育・研究を推進するための3つの大学院研究科を設置しており、修士課程(博士前期課程)、博士課程(博士後期課程)が設置され、充実した大学院教育・研究が行える。特に大学院理工学研究科では国立研究開発法人理化学研究所と協力して博士後期課程を組織し、他大学に先駆けた新しい形の大学院教育を展開している。

日本語教育センターは埼玉大学の外国人留学生に教育・指導・助言を行うことを目的として、全学における国際的教育・研究交流の支援にあたっている。また、多様な文化背景をもつ留学生に日本語、日本文化を学習する機会を提供している。

教養学部は、人文と社会にわたる多様な専門分野を含み、それぞれの専門の研究を基盤としながら、同時に各分野を有機的に関連づける総合的研究並びに各分野間の境界領域を探索する学際的研究を特に重視しているのが特色である。専門性と総合・学際性の調和を図ることで、現代に相応しい教養、柔軟に思考力、総合的判断力を備えた人材を養成することが教養学部の基本方針である。

経済学部は、社会科学を複眼的思考で学べるよう、経済分析、国際ビジネスと社会発展、経営イノベーション、法と公共政策という4つのメジャーを設置し、またグローバル展開力を身につけるため英語による専門科目や「日本研究」も開設している。少人数教育を重視し、同時に社会人や留学生、高校生という多様なメンバーも参加する「開かれた場」としての学習環境を提供することで、既成の概念にとらわれず、自ら問題を発見、分析、解決することができる人材の育成を目指している。

教育学部は、グローバルに物事を捉えながら、次世代の社会を生み出す教育を担う人材の育成をめざしている。学校教員及び生涯学習指導者として優れた教育実践を行うための専門的な教養・理論・技術を修得する。「教育による解決」これは一見遠回りのようにであるが、最も確実な生産的方法である。教育に携わることは、日本が、また世界が直面している課題と向かい合うことでもある。



② 国際交流の実績

2016年7月1日現在、87件の大学間学術交流協定と53件の部局間学術交流協定を締結している。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

2016年	留学生数	549人、
	日本語・日本文化研修留学生	7人
2015年	留学生数	527人、
	日本語・日本文化研修留学生	5人
2014年	留学生数	532人、
	日本語・日本文化研修留学生	6人

④ 地域の特徴

埼玉県は、関東平野の中央に位置する内陸県で人口はおよそ726万人、東京に隣接し、電車で約1時間の位置にある。東日本の交通の要衝であり、首都機能の一翼を担う県として大きく躍進している。埼玉大学があるさいたま市は、東京から北方へ20km、人口127万人を擁する県都、江戸時代からの伝統を受け継ぐ、文教・文化都市として発展しており、また、住みやすい住宅都市とも言われる程交通機関がよく整備され、緑豊かな環境とあいまってスポーツの振興も盛んに行われている。



■コースの概要

① 研修目的

(a) 日本事情・日本文化に関する研修を主とし、補助的に日本語能力の向上のための研修を行うもの

② コースの特色

10月～3月(第1期)は日本語を中心に学び、4月～9月(第2期)は、日本語学習を継続しながら、学生の専門領域に当たる日本文化の知識を高め、日本と母国の架け橋になる国際人を育成するためのプログラムである。

③ 受入定員

9名(大使館推薦6名、大学推薦3名)

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講希望する者は、次の1)及び2)を満たす者とする。

1) 日本語能力を有する者

一般的な事柄について会話や読み書きができ、専攻する科目について日本語による授業科目を聞き取りながら、内容を理解する能力を有する者。
(財)日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験N2級以上に合格していることが望ましい。

2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻する者又は、他の専攻分野に在学しつつ日本語・日本文化等に関する分野を学習している者。

⑤ 達成目標

- 1) 日本語と日本文化に関する技能や教養、自らの専門分野の知識を高めながら、日本語で情報収集ができ、日本語による高度な口頭発表や文章作成が行えるようになること。
- 2) 将来、母国における日本関係のエキスパートになるための基盤を養うこと。
- 3) 首都圏にある都市「さいたま」の文化や特色を学ぶこと。

⑥ 研修期間

2017年10月1日～2018年9月30日
修了式は9月を予定(2016年は9月)

⑦ 研修科目の概要

- ・ 学生自身の日本語能力や研究領域、関心等に合わせた内容の科目が受講できる。
- ・ 埼玉大学の各学部、日本語教育センター、教育機構等で開講している科目の内、各チーム7コマ以上、年間14科目以上を自由に履修できる。
- ・ 学生の専門領域に当たる各学部専任教員が、指導教員として指導を行う。

1) 必須科目

学生の日本語能力や興味等に合わせて科目を履修するので、必須科目は設けない。

2) 見学、地域交流等の参加型科目

教養学部で開講している専門科目を履修すると、日本文化を学ぶために、江戸東京博物館、吉原の源池(浅草)、歌舞伎座(木挽町)訪問等に参加できる。

3) その他の講義、選択科目等

埼玉大学日本語・日本文化研修留学生の多くが受講している科目等を以下に例示する。

a 受講できる受講科目

i) 日本語科目

- ・ 集中日本語コース
(初級Aクラス～上級Eクラス)
- ・ 学部「日本語」科目
(読解・作文・聴解・文章作成)

ii) 基盤科目として開設される

人文・社会系科目

- (例) ・ 日本史・日本語学・日本文学
・ 文化と教育・経済学入門

iii) 教養学部、教育学部、経済学部にて開設される日本語・日本文化等に関する授業科目

上記 i、ii、iiiの中から週7コマ以上、年間14科目以上受講する。

b 時間数

- 1科目は試験を含めて16コマ
※1コマは90分

c 指導の概要

日本語・日本文化研修留学生は、日本語のプレースメントテストを受験し、その結果に基づいて履修する日本語科目が決まる。また、指導教員の助言により、埼玉大学に開設された科目を履修する。

⑧ 年間行事

- 1) 埼玉大学祭「むつめ祭」 (11月)
- 2) 埼玉大学附属中学校等で留学生講師として自国文化を紹介 (5月頃)
- 3) ホストファミリー制度
(ホームステイ・ホームビジット)
(時期は年度によって異なる)
- 4) 全学留学生会 (ISSSU) に加入した学生は各種イベントに参加できる。



⑨ 指導体制

- 1) 責任教員：所属学部指導教員
- 2) 協力教員：留学生担当教員、日本語教育センター教員、開設科目担当教員
- 3) 担当事務：所属学部事務室・国際室

⑩ コースの修了要件

受講した科目については、出席数・試験等規定を満たした場合単位を与える。

上記⑦3) a 受講できる授業科目 i)、ii)、iii)の中から14科目以上の修得を修了要件とし、修了者には修了証書を交付する。

■ 宿 舎

埼玉大学国際交流会館には、単身室98室、夫婦室55室、家族室19室が用意されており、約170名を収容できる。
日本語・日本文化研修留学生は優先的に入居することができる。

(参考) 埼玉大学国際交流会館使用料
(2016年4月1日現在)

単身室 使用料月額：5,900円、
共用経費月額：6,440円、
管理費月額：1,500円、
保証金：12,000円×5か月、
退去時清掃費：25,000～30,000円
寝具レンタル月額：3,600円



■ 修了生へのフォローアップ

埼玉大学では、2010年から卒業生の同窓会組織が立ち上がった。

日本語・日本文化研修留学生プログラム修了生についても帰国後のフォローアップを整備していく。

また、facebookを活用した情報提供も行っている。

■ 問合せ先

(担当部署)

埼玉大学国際室

住所 〒338-8570

埼玉県さいたま市桜区下大久保255

TEL: +81-48-858-3011 (直通)

FAX: +81-48-858-9675

E-mail: ryugaku@gr.saitama-u.ac.jp

埼玉大学ホームページ

<http://www.saitama-u.ac.jp>